

大雨や台風によって起こる災害

大雨によって起こる災害は、場所によって異なります。それぞれの場所に応じて必要な防災気象情報を活用することが重要です。

【川の氾濫・土砂崩れ】 険しい山や急流が多い我が国では、大雨によって、川の氾濫や土砂崩れによる被害が発生しやすく、人々の生活や生命が脅かされるような自然災害が度々発生しています。

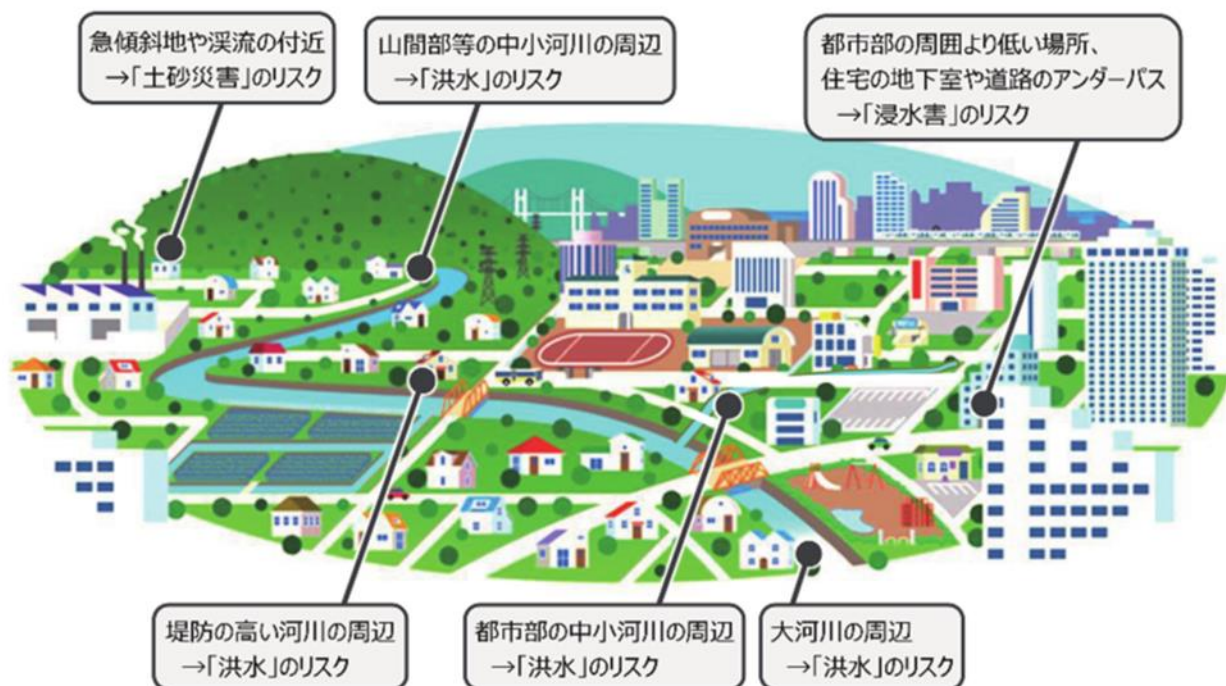


【浸水】 特に宅地等の開発が進んだ都市部では、道路や住宅の浸水、道路のアンダーパス等の地下空間の水没といった被害が発生しやすく、川では、急激な増水も生じます。



気象庁リーフレット「急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう！」

大雨により視界が悪く、また、浸水した道路では側溝の境界が見えにくくなります。川や田んぼを見に行き流される事故も発生しています。





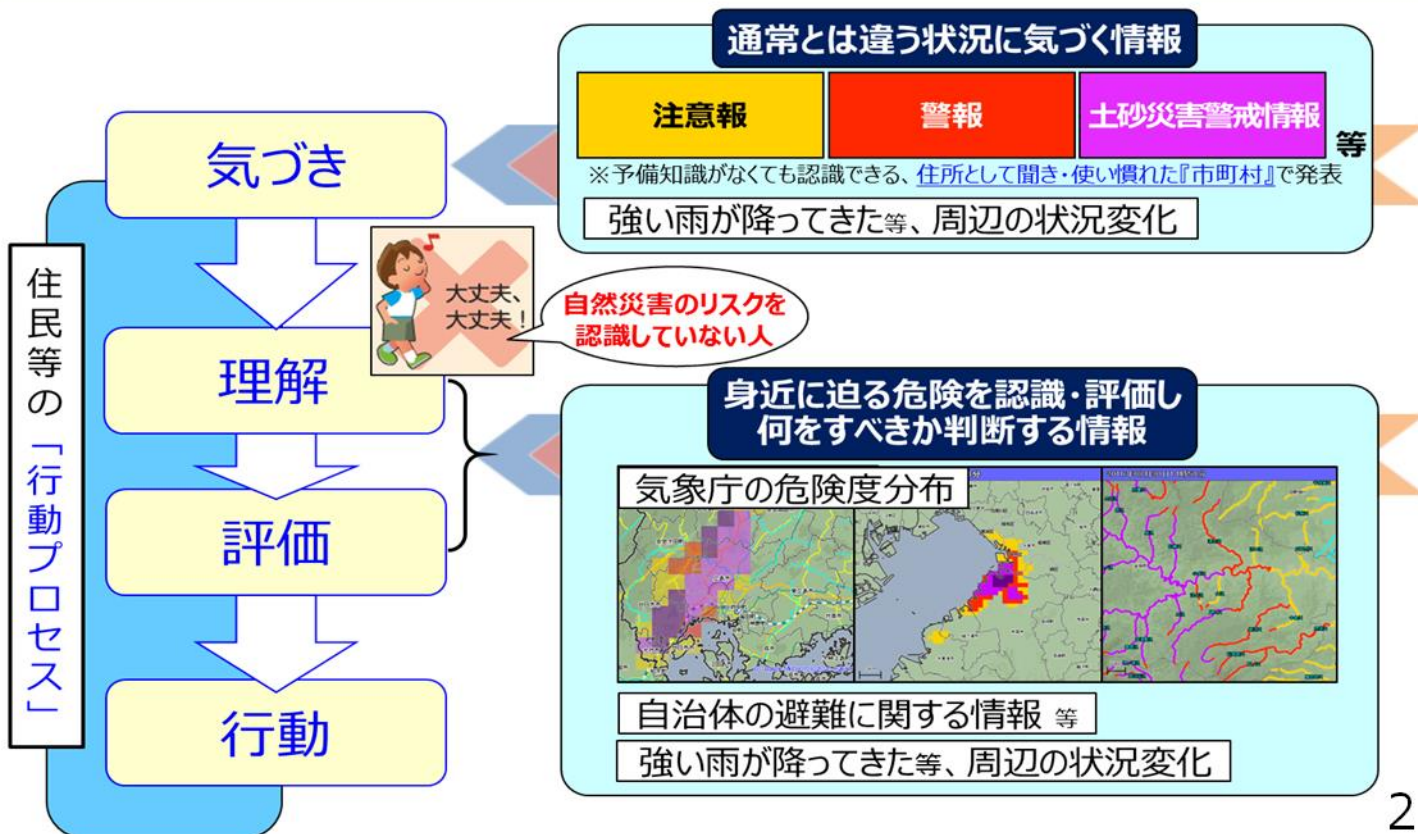
1 地域の特質に応じた安全対策

学校は、地震・津波による直接の被害のほかにも、地域の特質に応じて自然災害に対する様々な安全対策が求められている。例えば、地形や地質の特性によっては、地震に伴って大規模な斜面崩壊が生じる可能性もあり、また、大雨等によって斜面沿いでは崖崩れや土石流が発生するおそれもある。起こり得る災害は、学校が立地している地形や地質などの自然環境や社会的条件などから予測できる場合もある。学校においては、自治体が発行したハザードマップなどで日常から地域の危険な箇所や生じる可能性がある自然災害の特色を知り、学校の立地状況や通学路、活動場所などにおける自然災害のリスクを掌握しておく必要がある。また、学校から離れて教育活動を行う場合も、現地の情報を収集したり、あらかじめ活動周辺地域における警察や医療機関等の関係機関との連携を図ったりすることができるように備えておくことも重要である。 (以下、省略)

平成31年3月31日 改訂2版発行 第1章 総説 P17

住民の「行動プロセス」に沿う防災気象情報

～あらかじめ自然災害のリスクを認識していないと「行動」までつながりにくい～



段階的に発表される警報・注意報等

通常とは違う状況・・・ということに気づいてください



大雨・洪水警報の「危険度分布」 ～雨による災害の危険度を10分ごとに更新～

自分のいる場所の災害の危険度を地図上で確認できます

大雨・洪水警報の
危険度分布



災害から自分や家族の
命を守るために

身にせまる
災害を
一目で確認



自ら情報を得ることが
大切なひとを守る第一歩
せまる危険に気付けるのは
ほかでもないあなたです
気象予報士 / 井田寛子

気象庁のリーフレット
大雨・洪水警報の危険度分布
～身にせまる災害を一目で確認～

土砂災害・浸水害・洪水害の3種類



土砂災害警戒判定メッシュ情報
(大雨警報(土砂災害)の危険度分布)



大雨警報(浸水害)の危険度分布



洪水警報の危険度分布

危険度を5段階に色分けして表示



- 極めて危険 ← 重大な災害がすでに発生しているおそれ
- 非常に危険 ← 重大な災害が数時間以内に発生するおそれ
- 警戒
- 注意
- 今後の情報等に留意

※洪水警報の危険度分布の「今後の情報等に留意」は水色表示となっています。

この雨大丈夫？ そんな時は
気象庁ホームページで確認

危険度分布

検索



「経験したことの無い大雨 その時どうする？」

自らの問題として日頃からの備えや適時適切な防災気象情報の入手とその情報を活用した安全行動を事前にシミュレートする能動的な学習方法

時間：1時間30分～2時間程度
対象：小学校高学年から一般の方
対象人数：10人～50人

・気象庁ワークショップ「経験したことの無い大雨 その時どうする？」

・ [運営マニュアル](#)

・ [各種資料](#)

▪ [運営用資料・ふりかえり資料・配布資料](#)

▪ [プレゼンテーション・シナリオ台本](#)

▪ [グループワーク用資料](#)

・ [主催者用アンケート協力をお願い](#)

**運営マニュアル、
台本、映像等、
教材一式を
気象庁Hpで公開**



解説者と参加者が近い距離で、質問を交えながら進めるわかりやすい解説



少人数のグループに分かれ、様々な意見をまとめて対応を考えるグループワーク

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/jma-ws/index.html>

防災教育に使える副教材・副読本ポータル

**副教材・副読本を
対象年齢別、
現象別等に
整理して
気象庁HPに公開**

■対象年齢別




- ・幼稚園児・保育園児向け
- ・小学生向け
- ・中学生向け
- ・高校生向け

■現象別

- ・気象（台風・大雨・洪水・土砂災害・暴風・雷・突風・大雪等）、海洋
- ・地震・津波
- ・火山
- ・地球温暖化

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/fukukyouzai/index1.html>

(参考) 雨の強さと降り方

1時間雨量 (mm)	10以上～20未満	20以上～30未満	30以上～50未満	50以上～80未満	80以上
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る。	滝のように降る（ゴーゴーと降り続く）	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる
人への影響	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	傘をさしていてもぬれる		傘は全く役に立たなくなる	
					
屋内 (木造住宅を想定)	雨の音で話し声が良く聞き取れない	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく			
屋外の様子	地面一面に水たまりができる		道路が川のようになる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	
車に乗っていて	ワイパーを速くしても見づらい		高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる（ハイドロプレーニング現象）	車の運転は危険	

※『予報用語』は、天気予報やニュース等でも用いられます。どのような状況が想定されるのか、『イメージ』することが重要です。

(参考) 風の強さと吹き方

平均風速 (m/s)	10以上～15未満	15以上～20未満	20以上～25未満	25以上～30未満	30以上～35未満	35以上～40未満	40以上～
おおよその時速	～50km	～70km	～90km	～110km	～125km	～140km	140km～
風の強さ(予報用語)	やや強い風	強い風	非常に強い風		猛烈な風		
速さの目安	一般道路の自動車		高速道路の自動車		特急電車		
人への影響	風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。高所での作業はきわめて危険。	何かにつかまっていなと立ってられない。飛来物によって負傷するおそれがある。		屋外での行動は極めて危険。		
屋外・樹木の様子	樹木全体が揺れ始める。電線が揺れ始める。	電線が鳴り始める。看板やトンネル板が外れ始める。	細い木の幹が折れたり、根の張っていない木が倒れ始める。看板が落下・飛散する。道路標識が傾く。		多くの樹木が倒れる。電柱や街灯で倒れるものがある。ブロック壁で倒壊するものがある。		
走行中の車	道路の吹流しの角度が水平になり、高速運転中では横風に流される感覚を受ける。	高速運転中では、横風に流される感覚が大きくなる。	通常で速度で運転するのが困難になる。		走行中のトラックが横転する。		
建造物	樋(とい)が揺れ始める。	屋根瓦・屋根葺材がはがれるものがある。雨戸やシャッターが揺れる。	屋根瓦・屋根葺材が飛散するものがある。固定されていないプレハブ小屋が移動、転倒する。ビニールハウスのフィルム(被覆材)が広範囲に破れる。		固定の不十分な金属屋根の葺材がめくれる。養生の不十分な仮設定場が崩落する。	外装材が広範囲にわたって飛散し、下地材が露出するものがある。	住家で倒壊するものがある。鉄骨構造物で変形するものがある。
おおよその瞬間風速 (m/s)	20		30		40		60